

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム ふるさと

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900306		
法人名	株式会社 スガワラ製作所		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	岩手県一関市花泉町金沢字運南田170-1		
自己評価作成日	平成29年11月30日	評価結果市町村受理日	2018年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani_tru&Ji_gvovyoCd=0390900306-00&PfCd=03&Ver.sj.onQt=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30 年 2 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との結びつきを大切に、家庭的な雰囲気のもと、笑顔とぬくもりのある穏やかな暮らしを、その人らしさを大切に、安心して生活できるよう支援する事を目指し日々取り組んでいます。施設行事の敬老会や収穫祭には、利用者家族、地域住民やボランティアの方々を招待し入居者とのふれあいの場を多く持つよう心がけています。又、災害時における『お互い様』の関係づくりとして地域の方々の協力を得ての防災訓練を行っています。地域の観光地巡りや祭り見学などに出かけての地域の方々との交流を行い地域社会への参画に努めています。入居者の和づくりの一環として、施設農園を利用した花植えや野菜の種まき、収穫など職員との共同作業にも取り組んでいます。楽しみ・生きがい・自分が自分でいられる場として家事の好きな方々には調理や掃除などをして頂いています。職員の介護スキルの向上を図りながら入居者、入居者家族の意向を最大限尊重できるよう対応していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設前後に地域説明会や内覧会を行ったこともあり、日を追って地域の理解が深まり、事業所主催の収穫祭や避難訓練などに、多くの地域の皆さんの参加・協力が得られている。また、利用者の出身地域の観光地めぐりや祭り見学を通じ、出かける交流にも積極的に取り組んでいる。さらに月1回発行の広報紙「ふるさと通信」を地域の全戸に配布するとともに、認知症理解を深めていただけるよう「介護一口メモ」を広報紙に添えている。事業所には、利用者・家族と職員、利用者同士など、お互いに語りあえる場所として、「相談室」や「足湯コーナー」が設けられ、利用者は笑顔とぬくもりのある穏やかな暮らしをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	役員、職員間で理念を共有するため、ホールの見えやすい所に掲示し理念に沿ったサービスを心掛けています。又、ユニット会議で、理念を唱和し、理念に基づいてサービスが提供できているか、対応を協議しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り・清掃活動等に参加し地域の方々との触れ合いの場を多く持つよう心がけ実践しています。又、施設で行事を行う際は、地域の方々への呼びかけ参加させていただいております。散歩等の時は声を掛けて頂くことも増えてまいりました。散歩中に施設に立ち寄り入居者とのコミュニケーションを取っていかれる方もおります。	日々、地域との交流が深まっているなか、現在検討中の「子どもたちとの触れ合い、交流」を具体的に進めながら、一層の地域交流に取り組んでいただきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、地域に広報誌を配布しています。広報誌には施設での過ごし方の他に『介護一口メモ』として認知症を理解していただけるよう認知症者への対応の仕方や感染症等の情報を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況や事業所の取り組みなどを報告しています。委員の方々からの意見要望があった場合は速やかに対応しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員に会議に出席していただき、入居者状況や事業所の取り組みなどを報告しています。他事業所の取り組みなどの情報を市職員から提供していただき運営に役立っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを会議等で熟読し確認し合っています。 身体拘束の定義11項目及び玄関の施錠等を含め職員同士日々拘束について意識付けを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内会議及び外部研修等に参加し高齢者虐待防止について理解を深め施設全体で共有しています。言葉での虐待・身体的虐待が見逃ごされないようお互い注意喚起しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する入居者は居ないが制度についての内外研修に参加し理解を深めて行くことにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書や契約書の内容を説明しています。入居者やご家族の不安や疑問点を伺い、不明な点、不安な点が残らないよう十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しています。ご家族をはじめ地域の方々などから幅広くご意見を募り施設の取り組みに反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議・事業者との意見交換に於いて各職員から問題点や課題等を聞き取りし運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の職位・職責又は職務内容等に応じた任用等の要件を定めこの内容等に応じた賃金体系を定めています。又、勤続年数や経歴年数などに応じて昇給する仕組みを取っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員が資格を取得する為の研修会出席の際に休暇を付与しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業所合同研修会等へ参加させ、介護職員のスキルアップを図ると共に同業者との交流の機会を作っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状況調査時に、ご本人さん・ご家族様・担当職員さん・ケアマネージャーさん等から情報を頂き職員に周知しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時に、ご本人さん・ご家族さんに施設見学をして頂いています。又、困っていること・不安に思っていることを気安く話せる環境を作り、出来るだけ不安等を和らげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みに来た際に、グループホームについてご説明をし、ご本人・ご家族の意向・要望を伺い、他の支援内容も提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯物たたみ、掃除等負担にならない程度のお仕事を職員と一緒にしています。得意とする昔ながらの料理等は職員が教えて頂くなどして本人が自信をもって生活できるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との時間が増えるよう大きな行事にはご家族様に参加を呼びかけ参加して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地の観光や祭り見学等を行っています。馴染みの方に声を掛けられることも多くなりました。今後ふるさと訪問も計画しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え席替えをしたりしながら共同生活が継続できるよう工夫して支援しています。認知度が低下している入居者には職員が他の入居者との間に入りトラブル防止と、孤立しない様にしています。他の入居者の洗濯物たたみなどをすることにより関係性が築けている方も居ます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族さんから折々の野菜などを頂く等退所後も交流があります。新設事業所であり特老等への入所や入院等はまだ発生していないが、あった場合は面会にいき状態などを聞きながら相談や支援をしていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時折、ご本人やご家族さんに生活の意向を伺って支援しています。ある程度の危険のリスクはあるものの、利用者の自己判断を尊重し可能な範囲で見守り、付き添いながら支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人さん、ご家族さん、ケアマネージャーさん方からの情報をもとに対応しながら施設に馴染んでいただける様工夫しながら対応しています。家で使っていた食器や枕などを持参していただき家での生活に近い環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・昼・夕の申し送り時やユニット会議等において利用者一人ひとりの状態を職員間で把握し共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の更新や変更の際には、本人や家族の意向を確認しながら、職員全員で意見を出し合い作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で本人が出来そうな事には随時対応実践し、ケース記録に記載しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のニーズに柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の芋の子会などに招待され参加したり、地域の祭り(大門大名行列)見学や観光地巡りを行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院と連携しています。健康で気になることは家族に伝え、かかりつけ医に相談して頂いたり受診に立ち会ったりしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時バイタルを取り異常の早期発見に努め個々の入居者に適切に対応出来るよう随時看護師や係り付け医に連絡を取り合い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここ一年入退院される方は無かったが、そのような事が有った時には情報提供を行い、適切に対応支援致します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・看取りの指針について説明し、書面を渡しています。本人の状態に合わせて、家族と話し合いの場を持っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所前に救急救命講習の受講を行いました。急変時の対応についても、マニュアルに沿って行動できるよう研修の機会を多く設けていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を地域の方々の協力を得て実施しています。災害時に戸惑わず行動できるよう訓練内容を確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であると常に意識し、ご本人を尊重しながら、心地よい声掛けや対応を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の性格等を知り、言葉の裏にかくされている事も感じとれるように、職員はできるかぎりの時間を利用者と近い場所で過ごすようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を重視し急な思いつきにも出来るだけ対応支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2回の入浴、定期的に訪問美容も活用し自分なりの髪型にもこだわり、外出時には化粧等をし身だしなみにも気配り支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の準備や食後の後片付け等を手伝って頂いています。又、ホームの畑より新鮮な野菜を収穫し、利用者様と共に調理し美味しくいただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養バランスを考え身体状況に応じて医師より指示を頂き、減塩等に注意をはらい支援します。水分補給は1日1000cc以上を確保するよう心がけ3度の食事・10時・15時のおやつ時に水分補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできている方については、見守りしています。できない方については就寝時に介助し行ってもらっています。入歯は、每晚ボリデントにつけ洗浄しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方を尊重しつつ時間を見て誘導し排泄して頂いています。又、失敗されてもさりげない対応で、自尊心を出来る限り傷つけないよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスを考え献立を工夫し個々に合わせ食材を柔らかくし対応しています。腹筋を出来るだけ使うよう食事前の声だし等を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中に入浴して頂いていますが、個々の状態を見ながら入浴時間を変更し入浴して頂いています。基本的には週2回の入浴ですが、希望があれば週2回の入浴にこだわらず回数を増やし入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンをつかみ、日常生活に支障が出ないようにゆっくりと休んでいただいています。眠れない方には、水分補給をしたり、話を聞いたり安心して休んでいただけるように支援しています。睡眠剤が必要な方は内服されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が変わった時は常時申し送り等で伝達し副作用にも注意を払い症状の変化の早期発見に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った生活を楽しんで頂いています。（自由な、散歩、買い物等）		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望により、定期的に自宅に戻られる方、ホームに家族を呼び過ごされ食事に出かける方など入居者・家族さん方の希望に応じて対応しています。施設行事としてドライブや地域の祭り見物など外出する行事を多く取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアー等に於いて、家族さんからお預かりしているお金を多少渡して買い物を楽しんでいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚等より贈り物をされた時など、早々に電話、手紙を出すよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はバリアフリーで手すりを設置しています。食卓テーブルは、利用者が食事をしやすい様にその人に合った高さに調整し食事をして頂いています。ホールの壁には写真等を貼り、楽しい雰囲気作りをし、不具合を生じたときは一緒に考え相談し合い少しでも心地よく過ごせるよう支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、食卓テーブルの他にソファース席を設置しています。思い思いの場所でくつろげる様に配慮しています。又、足湯コーナー『語らい』で足湯を楽しむ方もおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、極力馴染みの物を持参して頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の身体、精神状況を把握し声掛けを行い、意欲を大切に出来ることは自分自身で行って頂くよう支援しています。		